

20001

心臓カテーテル検査・治療における造影後急性腎障害の発生

【目的】 造影後急性腎障害の危険因子として既存の腎機能障害や ICU 患者などがある。昨年、造影後急性腎障害の定義は血清クレアチニン値が前値より 0.3 mg/dl 以上または 1.5 倍以上の増加と改定された。心臓カテーテル検査・治療における造影後急性腎障害の発生頻度の報告は過去に多数あるが、改定後の定義の発生率に関しては報告がない。そこで、改定後の造影後急性腎障害の発生について検討する。

【方法】 対象は 2017 年 10 月 1 日から 2018 年 9 月 30 日の間に、心臓カテーテル検査・治療を実施し、検査・治療後 48 ～72 時間以内に腎機能検査を行った 178 症例である（透析患者は除く）。年齢、血清クレアチニン値、推算糸球体濾過値（eGFR）、糖尿病の有無、心エコー駆出率、造影剤使用量、病歴を調査した。得られた情報から造影後急性腎障害の発生率と危険因子について検討した。診断基準として ESUR Guidelines ver. 10 を用いた。

【結果】 術前に eGFR < 45ml/min/1.73m² の患者は 27.5%（49/178）であった。造影後急性腎障害の発生率は 5.6%（10/178）であり、単変量解析では造影剤使用量は危険因子ではなく、救急重症例と心機能低下（LVEF < 60%）が危険因子であった（p < 0.05）。

【結語】 心臓カテーテル検査・治療における造影後急性腎障害の発生率は 5.6% であり、危険因子は救急重症例と心機能低下であった。